

図書館と香り

山中 陽子†

人間の感覚には視覚・聴覚・味覚・触覚・嗅覚と5つの感覚がある。鼻から入った香り成分は、鼻孔から鼻腔に入ると、鼻の奥にある粘膜（嗅上皮）に溶解込み、嗅細胞から出ている嗅毛から取り込まれる。そこで電気信号に変換された後、嗅神経から嗅球を通して大脳辺縁系に直接伝達される。脳の中で、大脳新皮質が思考や言語などの知的活動を支配するのに対して、大脳辺縁系は記憶や喜怒哀楽等感情に関わる。嗅覚は大脳辺縁系に直接伝わるため、人間の感情に働きかける力が五感の中でも非常に強いといわれている。

脳に入った香りの情報は、大脳辺縁系に到達した後、免疫・内分泌調節を司る視床下部や下垂体に達し、良い香りは交感神経が副交感神経に切り替わってリラックス効果を感じる、ホルモン分泌を調整できるなど体への働きかけがある。

香り成分が脳に伝わるルートは3種類ある。一つ目は肺や呼吸器から全身を巡るルート、二つ目は皮膚から伝わるルート、三つ目は消化器から伝わるルートである。

ここでは呼吸器から伝わるルートをもとに空間における香りについて記していきたい。

植物の香りによってもたらされる「心豊かで心地よい環境」を日本アロマ環境協会では「アロマ環境」と名付けている。

近年では様々なニーズや目的に合わせ、天然の植物から排出されたエッセンシャルオイルの機能性を最大限に引き出し、心や体、環境への効果に配慮しながら、イメージやスタイルに合わせた質の高い香り空間をデザインすることを定義とした「アロマ空間デザイン」が提唱されている。

「アロマ空間デザイン」は、「香りの機能性の活用」と「香りのデザイン性の活用」からそれぞれの空間に適した香りの提供を促している。

例えば、介護施設や商業施設内のトイレなどでは消臭や抗ウィルス作用の高い香りで空気

環境を整え、ホテルロビーなどは落ち着き且つ、イメージを印象づけするようなその場のコンセプトにあう空気環境を整えている。

私は図書館においてもこの「アロマ空間デザイン」を提案していきたいと思っている。

最近の指定管理者運営の図書館では既存館にない新しい設備としてアロマディフューザーを設置している館が増えてきており、入口などでは多数の利用者に受け入れられやすい柑橘系等のアロマの香りを提供しており、概ね好評である。

ホテルが香りでブランディングしているのと同様に、香りの効果で「図書館＝アロマの香り」と印象付けし、図書館外でも同様の香りを感じた時に図書館を思いださせる機能を持たせることが出来ればと思う。

また、図書館利用者の目的別に、閲覧・参考コーナーでは集中力の高まるローズマリーの香り、児童コーナーでは親しみやすく明るい気分になれるオレンジスイートの香りなど、コーナー別の香りの演出を実現していくのも面白い試みではないかと思う。

関西の指定管理者制度で運営している図書館の何館かでは毎年定期的にアロマイベントを開催しているが、大人と子供では「よい匂い」として選ばれるエッセンシャルオイルがはっきりと分かれる。大人は、用意したエッセンシャルオイルの中から華やかなフローラル系や森林を彷彿とさせるウッド系、さわやかなハーバル系、前向きで明るい気分させてくれる柑橘系などの中から自身の記憶にある香りやその時の気分にあった香りを選出しているが、ほとんどの子供は柑橘系の中からグレープフルーツやオレンジスイートなどを選出してくる。これは、大人の方が香りの記憶の蓄積が多く、子供は記憶の蓄積が少ないのが理由かと思われる。

季節によってもそよ風のたなびく柔らかく暖かいイメージの春、太陽のじりじりとした暑さとどこまでも高い青い空の夏、しっとりと色

† 2013 年修了生

づく紅葉に彩られる秋、切るような寒さと凜とした白さを感じる冬など四季折々にはそれぞれにあった香りがあり、また1日の中でもさわやかな朝、活動的な昼、落ちついた夜等時間帯の違いでも香りの印象は変わっていくものである。

このように様々な場面によって香りは無限に選出することが出来る。

子供たちが図書館に来ることによって香りの記憶の蓄積の手伝いができればと思う。

今後図書館内で開催している子供向けの読み聞かせをアロマの香りとともに実演してみようと企てている。子供たちの五感の中の視覚・聴覚とともに嗅覚の発達にも図書館活動の中で影響を与えていければと考える。

また、図書館内のみならず、読む図書によっても香りの印象と関連付けても面白いのではないかと考える。学術論文など集中しているときにはローズマリーやティートリー等、小説ではその内容によって、恋愛小説ではラベンダーやイランイラン、ゼラニウム等、歴史小説では重厚な香りのフランキンセンスや白檀等図書館のみならず、各人の読書シーンにも香り付けすることができれば生活に彩りが生まれるのではないかと思う。

参考文献

- 1) 公益法人日本アロマ環境協会『アロマテラピー検定公式テキスト 2 級』公益法人日本アロマ環境協会, 2013.
- 2) アットアロマ株式会社『アロマ空間デザイン検定 公式テキスト』日経BPマーケティング, 2016.

[受理 : 2018 年 9 月 10 日]